

第 35 回環境審議会 議事要旨

日 時：平成 30 年 7 月 23 日（月）18 時～19 時 50 分

場 所：大阪市環境局 第 1・2 会議室

議 題：大阪市環境基本計画の改定について

出席者：（委員）上甫木会長、下田会長代行、市位委員、市川委員、岡委員、神田委員、
島田委員、中野（加）委員、西岡委員、花田委員、藤田委員、水藻委員、
和田委員

（事務局等）北辻環境局長、青野理事兼エネルギー政策室長、池上環境施策部長、
岡本環境施策課長 他

配付資料：次第

資料 1 現行の大阪市環境基本計画（平成 23 年度策定）の進捗状況等について

資料 1-1 参考資料

資料 2 大阪市環境基本計画の改定について（諮問）

資料 3 部会の運営（公開・非公開）に関して

資料 4 新しい大阪市環境基本計画について

資料 5 審議会の運営（傍聴者の発言）に関して

資料 5-1 傍聴要領

資料 5-2 審議会等の設置及び運営に関する指針

参考資料 1 「大阪市環境審議会規則」

【事務局説明】

- ・資料 1、資料 1-1 により、現行の大阪市環境基本計画の進捗状況を説明

【諮問】

- ・北辻環境局長から審議会へ大阪市環境基本計画の改定について諮問

【部会の設置】

- ・計画策定部会を設置し、部会委員を指名
- ・部会は、下田部会長、藤田委員、専門委員として、浅利委員、今西委員、岡委員、原委員、大石委員の 7 名で構成する。
- ・今回設置の部会については、市民、事業者の理解と協力を得ていくという計画の趣旨から、公開とする。

【計画のコンセプト等】

- ・資料 4 により、計画のコンセプト及び計画期間、今後の進め方について説明

・委員意見

＜大阪市環境基本計画のあり方について＞

- 環境側面から見た総合計画をやるということか
- SDGs 的にいろんな側面から計画を作るとなると、総合計画になるのではないか。それを環境基本計画でやって都市の施策として実効性があるのか。
- 環境のマスタープランを作るという話があったが、税制面を担保するなど実効性を高め、アクションプランにしていくための仕組みが必要だろう。
- 大阪市の自治体としての課題、地域資源があって、大阪市に求められる環境基本計画があると思う。大阪市のいま求められているものに応えるような計画にしていきたい。
- このような環境の計画は、地方、地域が国等の先に行くという気概を持って策定していただきたい。問題の後追いではなく、先を見据えた他にはない打ちし方をしていただきたい。
- いろんな英知を結集して、とりあえず作りましたよということではなく、しっかりいろんなところの意見を聞いて、環境局がリーダーシップを発揮して計画を作っていただきたい。
- 市民目線でわかりやすい基本計画を出していただくのが一番だと思う。そうすることで、町会単位で取り組もうかという話も出てくる。市民の協力が不可欠である。
- もうけの話や未来の話をする場合、どこに視点を置くのが重要。これからの社会の中で、環境の面をどう見ていくかという視点も必要。時間的、空間的、社会的にも多層な問題を整理し、市民や事業者に伝わりやすいわかりやすい計画を作っていただきたい。

＜環境基本計画で取り扱う項目について＞

- 温暖化や廃棄物などのように個別計画を持っていない、従来からやっている騒音、水質などの環境質の取扱いはどうするのか
- 目標については、大阪市の頑張れることと頑張れないことがあると思う。PM2.5 など越境汚染の影響が強いものやオキシダントのように基準自体が厳しすぎて達成困難なものを目標に挙げても達成しない。
- イノベーションに関しても、例えば CCS や CCU など国の施策として実施され、大阪市として責任の持てないところに依存する場合、どのように目標を立て取り組むのか。
- 大阪市だけでは解決できない問題についても、市民に対して良好な環境を提供するという意味から目標として挙げるべき。ただ、それが大阪市の努力だけでは達成できないことは認識しておく必要がある。

- ヒートアイランドの問題などは、都市化によるローカルな問題だけではなく、グローバルな気候の問題も絡んでいるので、目標の設定や達成の判断は非常に検証が難しい。
- 大阪市で温暖化対策としてできることは少ないかもしれないが、できることはある。今後の世界はパリ協定を基本に動いていくものとする。パリ協定との整合した新しい計画を作るという考えを盛り込んでほしい。
- 環境基本計画に都市の農地の問題を盛り込んでいただき、安易に宅地にならないよう、みんなで保全できるよう審議いただきたい。
- 活動が続かない、しんどさや経済的負担の大きさについて突き詰めていくことで、持続可能性について考えてはどうか。あるいは、楽しく継続していくためにはどのような仕組みが必要なのか、ということを考えてはどうか。環境に配慮することでトータル時間が短くなるなど、別の軸で評価することができれば。楽しむ、儲かるというところを切り込んでいってはどうか。
- 大阪市の課題、大阪と共生圏を作れそうなどの課題に対する取組を入れていく必要がある。緑化は、CO2削減やヒートアイランド対策、防災等様々な問題の解決につながる。大阪市として、そういった課題を抽出して並べる必要がある。
- 大阪市が抱えている課題に焦点を当てて、具体的に計画を作ってもらいたい。例えば、大阪では、家が接近し過ぎているところが多くて、窓を開けていたら、エアコンの室外機から出る熱い風で暑くて寝られない。イノベーションの力で、室外機から出る、夏は熱い風、冬は冷たい風を何とか変えることができれば、大変画期的で大阪市らしい取組みになる。また、熱さを和らげてくれる緑の配置など、様々な内容を計画の中に盛り込んでもらいたい。
- ヒートアイランドに関しては、ボトムアップでできること、都市開発などの大きな部分で取り組むこと、それぞれで取り組む必要がある。それぞれについて目標やアプローチを示すことで両輪を回す必要があると考える。

<計画のコンセプトについて>

- パラダイムシフトというのが、何を指すのかということについて明確にしたい。具体的に整理しないと言葉だけが宙に浮いてしまい、結局何もできないということになってしまう。
- 循環型社会への転換など、パラダイムシフト自体は地球サミットのころから言われている。今回のパラダイムシフトが1990年代後半に言われたものとどう違うのか明確にしてほしい。
- パラダイムシフトというのがわかりづらい。何かやわらかいキャッチフレーズのようなものがないと、プランが行動計画になって実際に動いていかないのではないかと。

○市民や事業者の理解や協力を得ることが非常に重要であるならば、東京五輪や大阪万博など、目に見える目標に向けて取組むようなことを入れていただきたい。

<未来社会のデザイン公募>

- 未来社会のデザイン公募について、あまりにも抽象的なので、公募を見た市民、事業者がどのようなことを求められているかがわかるような募集の仕方をしていただきたい。計画に反映できる意見が集まるような投げかけをお願いしたい。
- これまでの総括をしっかりとやり、それを提示することで未来社会のデザインを公募することで、地に足の着いた提案がいただけるのではないかと思う。
- 今ある計画の柱がどのように変わって、その中でどのようにパラダイムシフトが生まれてくるのか、そういったフローチャート図や概念図が公募の時には必要だと思う。
- 今現在の環境施策がどの位置にあるかというスタートラインを明確にしないと、最終的に向上して、ということになりかねない。それぞれの施策がSDGsのどこに位置づけられていて、どの段階にあるのかを明確にしていきたい。

<その他のご意見>

- 部会だけではなく、審議会委員や市民、事業者など、多くの主体と、できるだけ多く、広く議論できる場を設けることが大切だと考える。
- エコ家電に対してエコポイントを付ける、再生可能エネルギーの普及、特に波力発電なども盛り込んでいただければ。
- パラダイムシフトという点で、市民の意識としてここが大事だという認識は根付いていると思うが、企業の場合、利潤や利益を追求する点から、必ずしもヒートアイランド問題の取組みに結びつかない部分があるので、動機づけなどができればと思う。

【審議会の運営について】

- ・資料5により審議会における傍聴者の発言について説明
- ・審議会は委員が議論する場であり、公正・円滑な運営を担保する観点から、傍聴者の審議会での発言を認めることは適当でないという扱いとする。